

スマートウェイ推進会議が「提言」まとめる

2007年に実現目ざす

去る7月27日に行われたスマートウェイ推進会議（委員長、豊田章一郎・（社）日本経済団体連合会名誉会長）で、先進的なITS技術を統合して組み込んだ「スマートウェイ（知能道路）」の実現に向け「ITS、セカンドステージへ」と題する提言がまとめられ、国土交通省に提出されました。

この提言を踏まえ、今後は2007年に多様なサービスを一つの車載器で提供するなど、スマートウェイ実現に向けて具体的な取り組みが推進されます。また、これを踏まえ、2004年10月に愛知県・名古屋市で開催された「ITS世界会議」や、2005年3月に開催される「愛・地球博」では、産・学・官の連携のもとに、様々な分野でのITSサービスの実証実験が行われることとなります。

具体的な方策をとりまとめる

本提言は、1999年に取りまとめられた提言「スマートウェイの実現に向けて」を踏まえ、セカンドステージを迎えるITSを展開していく上で、共通の基盤であるスマートウェイを、具体的に実現していくための方策をとりまとめたものです。

今後、この提言を指針として、関係者の一層の努力により、スマートウェイが我が国の社会的な課題の解決に貢献する基盤として、いち早く実現することが期待されます。



豊田章一郎委員長



挨拶する谷口道路局長

セカンドステージに入ったITS

ITSの進展にともない、カーナビやVICSによる利便性・安全性の向上、バスロケーションシステムの実用化によるバスの活性化、ETCの普及による料金所渋滞の減少、多様な料金施策の実現など、安全で円滑な道路交通や生活環境の改善などが実現しはじめています。

そして、セカンドステージに入ったITSは、安全、安心、豊かさ、環境、快適、利便などの視点から、移動、交通の質を向上させ、以下のような社会的課題の解決に貢献し、スマートなモビリティ社会の実現を目指していくべきです。

- ①事故、環境負荷、渋滞などクルマ社会がもたらした負の遺産の清算
- ②高齢者、身障者が安心して移動できるユニバーサルデザイン社会の構築
- ③地方部における豊かな生活と活力ある地域社会の実現
- ④シームレスな情報環境の整備や、関連産業の効率化によるビジネス環境の改善

スマートウェイの推進方策～国家戦略として一層の加速推進～

スマートウェイの目ざすゴールは、「負の遺産の清算」、「高齢者のモビリティ確保」、「豊かな生活・地域社会」、「ビジネス環境の改善」——の4つを実現することです。このためには、国家戦略としてスマートウェイを位置づけ、これを一層強力に加速・推進することが必要です。そして、スマートウェイのゴールに向け、「交通死亡事故ゼロ」、「ETC標準装備」、「倍増する高齢ドライバーの安全運転支援」、「高速道路ICの倍増」、「公共交通の利便性向上」、「安全な道路交通確保」などを具体的な目標として、スマートウェイを実現していくべきです。

2007年、本格的なITS社会を実現

- 1) 2007年に、多様なサービスを一つのITS車載器で利用できる車内環境を整備することが望まれています。

- 2) ITS 車載器を活用して、以下のサービスを開始することが望まれます。
- ① あらゆるゲートのスムーズな通過：
駐車場をはじめ、ETC以外でのキャッシュレス決済等によるスムーズな通過を実現します。
- ② 場所やニーズに応じた地域ガイド：
周辺の道路情報や地域・観光情報を集約配信し、利便性向上、地域活性化を実現します。
- ③ タイムリーな走行支援情報の提供：
走行中の事故多発地点、詳細な工事規制、渋滞等の情報を即時的に提供し、安全・安心を向上させます。

- 3) 歩行者の携帯端末やPCなどとの連携も進め、車内のみならず常時シームレスな情報環境の構築を推進することが望まれます。

あわせて、路車協調による安全確保のための警告や車両制御についても研究・開発を進め、早期にサービスを開始することが望まれます。

おわりに

ITSがいよいよセカンドステージに入り、国民生活や文化に浸透し、日本社会全体に大きな効果をもたらすことが期

待されています。

さらに、今秋の名古屋の「ITS世界会議」や来春の「愛・地球博」などで、様々なITSサービスの実証実験が行われるなど、2007年の本格的なITS社会の実現に向けた具体的な取り組みが推進されます。今後は、実証実験の成果を踏まえ、官民が連携して新たなサービスモデルの検討を進めていく必要があります。

最後に、関係者の一人として、スマートウェイが我が国の社会的な課題解決に貢献し、より豊かな社会が構築されることを期待します。

(上席調査役、浜田誠也)

ITS アメリカ年次総会、 ITS 欧州会議調査報告会を開催

はじめに

去る6月22日、当機構大会議室で、第14回ITSアメリカ年次総会と、第4回ITS欧州会議の調査報告会を、合同で開催しました。

訪問先

今年のITSアメリカ年次総会は、4月26日から28日までの3日間、アメリカ、テキサス州サンアントニオ市のヘンリー・B・ゴンザレス・コンベンションセンターで開催されました。会合出席の途上、カナダ、オンタリオ州運輸省を訪問し、料金所ゲートを持たないフリーフロー方式のETC有料道路407ETRのヒヤリングと、現地調査を実施しました。また、アメリカ、ボストンで、リー・アームストロング氏にアメリカにおける5.9GHz DSRCの最新状況をヒヤリ

ングしました。

一方、ITS欧州会議は5月24日から26日までの3日間、ハンガリー、ブダペスト市のノボテル・ kongressentrum で開催されました。会議終了後、オーストリアのオーストリア道路公団 (ASFINAG) を訪問し、今年1月から運用を開始したフリーフロー方式の重量車課金の高速道路の状況をヒヤリングするとともに、現地調査を実施しました。

報告会では両会議で聴講したセッションや訪問先のETC調査等について、詳細に報告しました。

ITSアメリカ年次総会

今年のアメリカ年次総会はビジョンゼロと題し、交通事故による死者数と渋滞遅延による経済的なロス的大幅な削減の方針が打ち出されました。セッションは人身の安全 (セイフティー)、保安対策 (セキュリティ) と旅行者情報が話題の



米国VII構想について発表する辻常務

中心で、また、VII構想が示され、大きな関心を引きました (詳細は本誌75号に掲載)。

ITS欧州会議

一方、欧州会議においては、ヨーロッパ統合という大きな目的のためのITSの役割が強調されたほか、引き続きE-Safety計画の推進が唱えられたことを報告しました (詳細は本号32ページ参照)。

参加者

報告会開催について当機構関連の賛助会員、協力組織にご案内したところ、台

風一過の暑い日にもかかわらず各社、機構より50人ほどのご参加をいただき、アメリカ・ヨーロッパにおけるITSの最新情報と、同時に訪問調査した有料道路に関する報告を、ほぼ全員が最後まで熱心に聴講され、参加者の欧米の状況に対する注目の高さが窺われました。報告者側も参加者の関心の高さに思わず時間を忘れ、予定時間をオーバーしての報告でした。



会場風景

ご協力をお願い

当機構では、例年、賛助会員や関連組織の方々からメンバーを募って海外調査

団を編成し、ITS年次総会やITS会議・展示に参加し、現地のITS事情を調査する活動を行っています。

来年度につきましても海外調査を行う予定ですので、ふるって現地調査にご参加いただき、報告書の作成や報告会にご協力いただきますよう、お願いいたします。

(ITS統括研究部調査役、小池幹生)

平成16年度ITSセミナー開催される

はじめに

当機構では、民間企業のITSに携わる人材育成を支援するため、平成12年度よりITSセミナーを実施しております。本セミナーは、当機構賛助会員の中から電気、通信、自動車メーカー、ゼネコン、建設コンサルタント会社及び舗装会社等を対象としており、自身の専門以外の異分野技術を修得できるコース設定が、大きな特徴となっています。(セミナー概要及びカリキュラムを参照)。

今年度は、7月8日(木)、9日(金)の2日間にわたり実施いたしました。初日



活発な議論が行われた討論会

と2日目の午前中は航空会館(東京・港区)でセミナー(講義)、2日目の午後は現地調査を行いました。

講義

2日間のセミナーでは、東京大学国際産学共同研究センターの桑原教授をはじめ各分野における第一人者を講師に迎え、最新の技術動向や豊富な事例を交えた、大変興味深い内容の講義が行われました。事後のアンケート調査結果からも大変高い評価を

いただき、満足度の高い結果となりました。

また、討論会では「ITSの新たな方向性/推進展開のあり方」というテーマのもと、メーカー系参加者とゼネコン系参加者が混在する複数のグループに分かれて、それぞれのグループで活発な議論が行われました。日ごろ接することの少ない他業種の社員との意見交換の中で、普段と違った考え方に触れる、有意義な時間となりました。



交通管制システムの現地調査

現地調査

セミナー第2日目の午後には、現地調査が行われました。最初に東京大学国際産学共同研究センターにご協力いただき、ドライビングシミュレーター等の体験を行いました。次に首都高速道路公団東東京管理局交通管制室にご協力いただき、交通管制システムの見学をさせていただきました。

また、参加者の方々からの活発な質問に対しては、具体的で分かりやすい回答をしていただきました。普段、直接見る

●平成16年度ITSセミナー概要

■目的

民間企業のITSに携わる人材の育成のため、異分野の技術を含むITS関連技術の最新動向、行政サイドの最新情報などを、短期間に集中的に修得させることを目的とする。

■対象

建設コンサル・ゼネコン及び電気・通信・自動車メーカー等の民間企業社員で中級レベル（ITS関係の係長～課長クラス）の社員

■期間

平成16年7月8日（木）～9日（金）
（9日午後は現地調査）

■人数

電気・通信・自動車メーカー社員：15名
建設コンサル・ゼネコン系社員：21名

■カリキュラム

別表のとおり

■実施場所

航空会館

■現地調査

東京大学 国際産学共同研究センター ドライビングシミュレーター等の体験
首都高速東京管理局交通管制室 交通管制システムの見学

●平成16年度ITSセミナーカリキュラム

（敬称略）

月/日 曜日	時間	カリキュラム内容
7/8(木) 会議室 201	9:30～9:40	開講挨拶 ((財)道路新産業開発機構 専務理事 安達常太郎)
	9:50～10:50	渋滞とITS技術 (東京大学 生産技術研究所 国際産学共同研究センター 教授 桑原雅夫)
	10:50～11:00	休憩
	11:00～12:00	ITSにおけるプロジェクトマネジメント手法とその実施例 (スピリット 代表取締役 田熊伸好)
	12:00～13:00	昼食
	13:00～13:50	地上波デジタル放送技術のITS分野への活用 (株)ファイブ・ディー 代表取締役 中村博明)
	13:50～14:00	休憩
	14:00～14:50	ITSを活用した道路・交通インフラ事業 (鹿島建設(株) 土木設計本部 設計技術部 設計長 北山 真)
	14:50～15:00	休憩
15:00～17:00	討論会（グループ討議、発表） ((財)道路新産業開発機構 次長 浦野 隆)	
7/9(金) 会議室 701	9:30～10:40	欧州におけるERP（料金収受システム）の現状 (東京経済大学 経営学部 助教授 青木亮)
	10:40～10:50	休憩
	10:50～12:00	路車間通信の適用性 ((財)道路新産業開発機構 上席調査役 岩田武夫)
	12:00～13:00	昼食
13:00～17:00	現地調査 東京大学 国際・産学共同研究センター及び首都高速道路公団 東京管理局交通管制室	

ことが難しい施設や設備を見学できたことで、参加者の方々は大変満足された様子でした。

おわりに

今回のセミナーは第5回目であり、これまでの反省点を踏まえて開催時期を早め、期間を短縮する等、参加者がより参

加しやすいうように、さらなるブラッシュアップを図りました。また、カリキュラムに関しては、地上波デジタル放送や欧州における料金収受システムの現状等の最新のトピックを盛り込みつつ、参加者の興味をひく内容となるよう心掛けました。セミナー実施後にはアンケート調査を行い、参加者の皆様から貴重なご意見をいただきました。

2日間にわたるセミナーでは、至らない点多々あったことと思いますが、この実施結果や参加者の皆様のアンケートを踏まえて、次年度以降さらなる検討を行い、有益で効果的なセミナーを開催していくこととし、ITS関係の人材育成に微力ながら貢献していきたいと考えております。

(ITS統括研究部調査役、遠藤太嗣)

第4回ITS 欧州会議 (ITS in Europe) 報告



ERTICO、オリビア・モスCEOの挨拶

ていました。参加者数912名、展示団体42団体とITS世界会議の規模ではないものの、欧州を中心に各国から多数の参加がありました。

主要な話題

E-Safetyの欧州全体への普及拡大、路車協調システムへの取り組み、道路利用者課金、マルチモーダルサービス、インターオペラビリティの確保が主要トピックとなっていました。

オープニング

ブダペスト市長、ERTICOのオリビア・モスCEO他が登壇し、特にE-Safetyを中心とする安全性向上に向けたEU全体のITS活動の協調を訴えました。また、ITSハンガリーの設立など中欧・東欧のITS活動の事例や、欧州各地で検討されている道路利用者課金の事例も紹介されました。

セッション

セッション数は合計51で、テクニカルセッションを中心に下記の代表的なテ

ーマが討議されました。

プレナリーセッション：

新しいインフラとITSの資金調達、EU拡大と統合的なE-Safety計画の推進、他

テクニカルセッション：

料金収受の技術／インターオペラビリティ、高度ドライバー支援システム、位置関連サービス、交通情報・交通管理、位置検知とナビゲーション、他

ストラテジーセッション：

中欧・東欧のITSサービス、貨物輸送と物流のITS、マルチモーダルITSサービス、他

スペシャルセッション：

交通情報品質のニーズ、FRAME／ITSアーキテクチャ、他

展示

EC(欧州委員会)やERTICOのITS関連プロジェクト紹介を中心に、道路事業者や自動車メーカーのETC関連展示が目立ちました。展示会場が狭く、展示もほとんどがパネルやパソコン、パンフレット中心で、実際の製品の展示はあまり見られませんでした。

はじめに

第4回ITS 欧州会議がハンガリー、ブダペストのノボテル・コンgresセンターで、5月24日から26日の3日間にわたって開催されました。今年は東欧諸国のEU加盟という大きな出来事があり、ITS 欧州会議も新加盟国のハンガリーで開催されるなど、欧州のITSの東欧拡大が会議テーマとして打ち出され



調査参加メンバー

訪問調査

オーストリアでは、2004年1月よりDSRCを利用した重量車課金システムの

運用を行っています。2004年5月28日、オーストリアの高速道路を建設、運営及び管理している ASFINAG 社と、実際課金システムを同社より受託業務として実施している EUROPASS 社を訪

問し、システムの詳細と運用状況について調査を行いました。車載器の自動販売機での購入を実際に試したり、違反車両の取り締まりシステムを見学したりと、ASFINAG 側の説明も非常にキメ細かく、システムの順調な運営状況が窺われました。

おわりに

業務多忙の中、今回の調査に参加していただいた各企業の皆様に厚く御礼を申し上げます。

(ITS 統括研究部研究員、鈴木理江)

IT CITY MESSE in GIFU 出展報告

「IT CITY MESSE in GIFU—第5回全国都市づくり先進情報技術展—」は、7月15日(木)、16日(金)の2日間、岐阜メモリアルセンター、未来館で開催され、当機構はITSゾーンに出展しました。

イベント概要

「IT CITY MESSE in GIFU」は、「ITを活用したこれからの都市づくり」という観点から、都市づくりに関わる先進情報技術の研究成果、最新の開発動向／製品情報、応用技術を日本の真ん中の岐阜県に一堂に集め、紹介するイベント



テープカット (中央;岐阜県副知事)

です。これにより、全国の都市づくりに関わる行政担当者・研究者・実務者の情報交流を図り、これからの市民生活を支

える共通基盤としてのネットワーク技術の構築や、ユビキタス社会の実現に寄与することを目的としています。

全体で87ある展示ブースは、「建設／土木」、「景観システム」、「GIS」、「ITS」、「物流IT」、「複合」、「中部PR」の七つのゾーンに分類され、産・学・官の多様な団体が出展していました。今回の特徴としては、ユビキタス社会の構築に向け、ICタグやICカードなどの技術開発や、ICチップを組み込んだ携帯電話の活用、

日付	来場者数	前年比
7月15日(木)	9,610人	122.5%
7月16日(金)	10,760人	146.6%
合計	20,370人	131.7%

景観法の制定を踏まえた景観システムなど、最先端の技術を持つ企業が多数出展していることにあります。

また、これに併せて、「同時開催セミナー」や「2004 河川環境メッセ in 岐阜」が開催されました。来場者は平日にもかかわらず2万人を超え、盛況のうちに終了しました。

当機構の出展概要

当機構の展示ブースでは、当機構が調査研究している「ETCの通信手段として利用されているDSRC(狭域通信)を用いた多様なサービスの展開」、「都市拠点型スマートICなど将来のスマートICの形態」、「防災情報を共有するための広域情報ネットワーク」——をパネル



当機構展示ブース (パソコンによる模擬体験)

などにより紹介しました。特に「DSRCを用いた多様なサービスの展開」については、大型ディスプレイによる放映や、近未来に実用化される多様なサービスのパソコンによる模擬実体験(国土技術政策総合研究所所有コンテンツ)により、来場された方たちにアピールし、好評を得ました。

おわりに

「IT CITY MESSE in GIFU」は「ITS世界会議・名古屋2004プレイベント」として位置づけられており、来場者数の一部は「ITS世界会議」関連イベントの目標動員数50万人にカウントされます。また、同時開催セミナーのメニューとしてITSセミナーが開催され、「ITS世界会議・名古屋2004の開催とITSの展望について」、「携帯サービスの進化とITSへの活用」、「岐阜県版ITSの開催と岐阜県の取り組みについて」の講演は多数の方たちが聴講されていました。このように今回のイベントは、ITSが社会の一部として定着しつつあることを窺わせるものでした。

(ITS統括研究部調査役、山口和範)

DSRC 普及促進検討会の中間報告会開催される

はじめに

去る9月17日、DSRC普及促進検討会の中間報告会が(財)日本教育会館8階第一会議室(東京都千代田区一橋)で、開催されました。

ITS世界会議を目前に控え、本年1月の検討会設立以降、作業部会及び関係機関で進めてきたDSRCの普及促進活動についての報告会であり、119団体から230名の参加を得て、盛会のうちに終わりました。

DSRC普及促進検討会の概要

DSRC普及促進検討会は、DSRC応用サービスの関係者が協力してビジョンを共有し、具体的な方策を検討・提言することにより、DSRC応用サービス



DSRC普及促進検討会の中間報告会

を早期に普及させることを目的として、2004年1月に設立されました。中間報告会は、これまでの検討内容及び今後の方向性を示すものです。

なお、参加会員としては民間213社(2004年9月30日現在)、オブザーバーとして4省庁(警察庁、総務省、経済産業省、国土交通省)が参加しており、

HIDO(当機構)もARIB((社)電波産業会)、JARI((財)日本自動車研究所)と共同して、事務局を務めています。

中間報告会の概要

中間報告会では、冒頭、本検討会の渡邊浩之会長(トヨタ自動車専務取締役)

の挨拶があり、関係4省庁の来賓の紹介及び4省庁を代表して、谷口博昭・国土交通省道路局長の来賓挨拶がありました。

続いて以下に示す個別報告、今後の予定及び質疑応答があり、活発な質疑のうちに閉会となりました。

なお、これらの資料については、本検討会のホームページ (<http://www.arib.or.jp/dsrc/>) で公開中です。

今後の予定

今後の課題としては、①仕様のオーソライズ、②相互接続性／相互運用性確保の仕組み、③利用者視点での普及進展、④走行支援など他のITS通信への活動

展開—があげられています。

これらの課題について、本年10月の「ITS世界会議 愛知・名古屋2004」における実証実験、来年3月オープンの愛知万博以降の実運用をメルクマールとして検討を進め、DSRCの早期の普及促進を実現します。

(ITS統括研究部副調査役、佐伯昌雄)

●個別報告リスト

題目	講演者	所属
1 スマートウェイ推進会議報告 ～ITS、セカンドステージへ～	宮地淳夫氏	国土交通省道路局ITS推進室長
2 作業部会活動状況	天野 肇氏	DSRC普及促進検討会 作業部会座長
3 車載器標準化の検討状況について	中間保利氏	JARI車載器標準化 WGリーダー
4 DSRCの相互接続性・相互運用性 に関する検討状況について	小林 哲氏	DSRC相互接続性確認の あり方検討作業班 ARIB
5 次世代車載器向けセキュリティ運用 スキーム～クレジット決済標準化の 検討状況について～	三好哲夫氏	JARI決済WGリーダー
6 ETC車載器 機器番号等に関する 検討状況	堀江 武氏	スマートウェイパートナー会議 DSRC部会機器番号検討WG主査
7 ITS世界会議での社会実験について ～ショーケースとその実用化展開～	小出公平氏	ITS JAPAN
8 今後の予定等	浜田誠也氏	HIDO

毎日女性フォーラム開催される

去る9月8日、東京・新宿区のパークハイアット東京で、主に女性を対象とした「暮らしのなかのITS（主催、毎日新聞社）」が開催されました。「カーナビ、VICS、ETCなど女性のカーライフを考える」をテーマに、2007年には本格的に普及すると想定される最先端の道路交通システムや、大きな可能性を持ったITSの魅力などについて、どのように暮らしのなかにITSを役立てていくかを目的に、行政関係者、有識者による講演、パネルディスカッションが行われました。

最初に、宮地淳夫・国土交通省道路局ITS推進室長より「2007年、ITS社会の実現をめざして」と題し、ITSの現状や今後の展開について、基調講演が行われました。

続いて、パネリストの岩貞るみこ（モータージャーナリスト）、上田みどり（広島経済大学教授）、戸田江里子（ハッピーコム代表取締役）、永井美奈子（フリーアナウンサー）、永田道子（毎日新聞編集委員、コーディネーター）の5氏により「暮らしのなかのITSを考える」をテーマに、ITSへの注文や社会に及



基調講演をする宮地室長

ぼす影響などについて、パネルディスカッションが行われました。

その意見の中では、ITSを実現するに当たっては、

- ①実際に車を使って仕事をしたり生活をしたり、あるいはベビーカーを押して道路を歩いたり、車椅子で外出したりする人たちの声を十分に反映させることが不可欠
- ②もう一つつけ加えると、道路や車の世界はまだ男性中心のようだ。世の中の半分は女性なので、もっと意見を言っていくべき

など、様々な立場から、女性にとっての暮らしのなかのITSを踏まえた意見があり、200名を越す多くの参加者にとっても大変有意義なフォーラムであったと思います。

（上席調査役、浜田誠也）



活発な議論が行われた女性フォーラム

役員の変替

専務理事が交替しました。

安達常太郎専務理事 ————— 平成16年7月15日辞任

有賀長郎専務理事 ————— 平成16年7月16日就任

ホームページリニューアルのお知らせ

当機構のホームページを、9月10日(金)から内容を充実し、リニューアルしました。URLは、右のとおり旧ホームページのものを継続して使用しております。

リニューアルの内容は以下のとおりです。

- ・ホームページのデザインを一新
- ・旧HIDOホームページと旧HIDO ITSホームページを統合し、全体像が分かりやすい構成とした。
- ・会員ページを新設し、賛助会員の皆様のみならず自主研究の資料など詳細な情報を提供（会員ページでは、本誌TRAFFIC & BUSINESSの全ての内容がご覧になれます）
- ・研究・各種会議のサイトの新設による、当機構の研究内容紹介の充実
- ・「エコロード商品データベース」、「東海道散策マップ」、「ITS情報サイト」など新コンテンツの追加



リニューアルされたホームページ

URL:<http://www.hido.or.jp/>

新ホームページから、当機構の職員がほとんどの部分を直営で運営する体制としました。このため、旧ホームページに比べ更新頻度が向上し、タイムリーな情報をキメ細かく提供できるようになりました。

また、新ホームページからリンクフリ

ーとしておりますので、当機構の活動に賛同される方はリンクして下さいようお願い申し上げます。なお、リンク規定につきましては、ホームページの「連絡先」に載せておりますので、ご一読下さい。

(ITS 統括研究部調査役、山口和範)

編集後記

昭和59(1984)年に設立された当機構は、おかげさまで去る7月2日、創立20周年を迎えました。今号では、これを記念して6月17日、東京・麹町のルポール麹町で開催された、記念講演会と懇談会の内容のご紹介を中心に、特集しました。

まず、懇談会における、当機構の「生みの親」といわれる梶原拓岐県知事をはじめ、佐藤信秋国土交通省道路局長、豊田章一郎会長、尾之内由紀夫理事長など、内外の主だった方たちの激励のお言葉やご挨拶等をご紹介し、続いて、

月尾嘉男東京大学名誉教授による記念講演「交通と通信が融合する21世紀」の概要を掲載しました。

そして、記念行事と同日に行われた「平成16年度事業計画説明会、調査研究発表会」や、9月28日に行われた「平成17年度道路関係予算概算要求等の説明会」等、この間の機構の主な活動の内容等をまとめて掲載しました。

また、巻頭インタビューは「メタルカラーの時代」の長期連載で名高い、山根一真氏の第1回目となっています。(S)

TRAFFIC & BUSINESS 季刊・道路新産業

AUTUMN 2004 No.76 (平成16年11月30日)

発行 財団法人 道路新産業開発機構
〒104-0045 東京都中央区築地7丁目17番1号
住友不動産築地ビル2階
TEL 03-3545-6633(代表)
FAX 03-3545-6660
ホームページ <http://www.hido.or.jp/>

編集発行人 齊藤隆司
編集協力 株式会社リーブル
印刷 有限会社セキグチ

★本誌掲載記事の無断複製をお断わりします。